

松阪市子どもの権利条例づくりへ向けて

三重県の子ども条例制定を受けて、松阪市でも子どもの権利条例を考える動きが出ています。「子どもの権利」ってなんだろう？と思ったら、シンポジウムに参加しませんか？

三重県子ども条例学習推進事業

「地域で子どもを支援すること」～子どもを権利主体として捉えるには～

第1部 「子どもの生きるチカラ」 講師：関西学院大学准教授 浜田進士 氏
権利について、自己肯定感についての講演です。

第2部 パネルディスカッション「松阪市における子どもたちの今、これから」
いろいろな立場のひとが子どもの権利について話し合います。

■日時 2012年2月26日(日) 13:00～16:00

■会場 ワークセンター松阪 体育館

■参加費 無料

■主催 三重県 松阪市社会福祉協議会 ■企画運営 子どもの権利を考える市民委員会
お申込み・お問い合わせ・・・(特)松阪子どもNPOセンター TEL 0598-20-1511

子どもの権利を考える市民委員会

子どもの権利を考える市民委員会は、松阪市社会福祉協議会、松阪子どもNPOセンターや、行政、教育の場などで子どもに関わるさまざまな人たちが集まって月に一度、それぞれの立場から子ども支援や子どもの権利について話し合い学び合う場となっています。それぞれの組織同士のよい信頼関係ができており、子ども支援のネットワークがひろがりつつあります。これからも「松阪市子どもの権利条例」づくりについて考えていきます。

(特) 松阪子どもNPOセンターは 子育て・子育てをささえます

興味を持ったら、参加したいと思ったら、たのしそうだと思ったら、もっと知りたいと思ったら、手伝いたいと思ったらすべてのお問い合わせは、

《特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター》

住所 〒515-0043 松阪市下村町1115 Tel・Fax 0598-20-1511
ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp 月～金 10:00～17:00

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター

Winter 第113号

こども21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

発行 2012年1月1日

〒515-0043 松阪市下村町1115

TEL・FAX 0598-20-1511

ホームページ <http://www.mknpo.jp/>

Eメール info@mknpo.jp

12月26日 食育体験講座(小学校高学年)



特集

第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ
子ども支援フォーラム
～子どもの声が地域・社会を変える～
をふりかえって



12月14日 絵本の読み聞かせ&ほっとカフェ



あけまして
おめでとう
ございます

去る11月26日・27日、第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ 子ども支援フォーラム～子どもの声が地域・社会を変える～のべ1025名の参加をいただき、終了しました。このフォーラムは、チャイルドラインの関係者だけではなく、広く子どもに関わっている行政・企業・NPOなど様々な組織の人々が「子ども支援」のあり方を考えようと実行委員会を立ち上げ、取り組んできたものです。

その中で、子ども支援の質の向上について取り組んできました。当センターにおいても、ファミリーサポート、養育支援、学習支援、チャイルドライン、体験事業、広場事業、ママサポート等々、様々な形態の子ども支援をしていて、その支援には多くの方が関わっています。子どもに関わる時、支援者として大切なことは何でしょう。関わる子どもの年齢も乳児から高校生まで様々ですが、子どもだから・小さいからということで、わからない・できないと決めつけたり、自分をよく見せようと装ったり、できない言い訳をしたりと無意識にやってしまうことがたくさんあります。子どもを一個人として捉え、子どもの力を信じること、また自分を見つめ、ありのままの自分で真摯に子どもと向き合うことができるよう、当センターとしてこれからも子ども支援の質にこだわっていきたいと思っています。またこのフォーラムをきっかけに子ども支援のネットワークを広げ、子どもが育ち大人も育つ地域社会をめざしたいと考えます。

理事長 塩谷明美

第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ 子ども支援フォーラム～子どもの声が地域・社会を変える～ をふりかえって

2011年11月26日(土)・27日(日)
三重県総合文化センター



基調報告から

三重県知事や津市長・松阪市長の挨拶で幕を開けた一日目。チャイルドライン支援センター代表理事 清川輝基氏からは、チャイルドラインで年間23万件の子どもの声を聴くことから伝わってくる子どもの危機的な状況に、電話で子どもたちの気持ちを受け止めるだけでなく、子どもの運動能力の低下、自己肯定感の低下、コミュニケーションの低下を止めるためにどれだけ支援できるか、子どもに届く地域での子ども支援の輪を広げ、その先の活動に踏み出す必要性など日本の子どもの現状と大人の課題が報告されました。

★チャイルドラインの必要性と、ラインで受け止めた子どもの声を次の支援につないでいくことの大切さ

⑫子ども支援のネットワークづくりとは

行政、NPO団体が取り組んだより良い関係づくりの模索が実践報告の主な内容でした。親の子育て力の低下も『湯ざまし』どこで売ってますか?』の言葉から伺えました。ネットワークを構築する上で、大切なことは、街路樹を植える行政とその根元に季節の草花を植える市民のような緩やかな関係です。そして、よく話し合い各人が精いっぱい力を出して関わる事だと具体的に話されたコメンテーター土堤内昭雄さんの話に集約できました。

★自立した団体としてお互いのミッションを大切にし、対等な関係をつくっていく

そしてこれから

子どもたち一人ひとりがあるがままの自分を認め心豊かに成長していくために、様々な立場の人や団体が手をつなぎ、とぎれることなく支援していくことが大切です。

また、組織の垣根を越えて子ども支援を多角的に捉えるネットワークも重要となります。

全体会では「体験の多い大人とのかかわりは面白く楽しい。もっと大人も様々な体験を重ねてください」という子どもからの発信がありました。これからは子どもたちが大人や社会に対して思いや考えを発信できる場を作り、この町に住む子どもも大人もいっしょによりよい町をつくるひとつとして「松阪市子どもの権利条例」づくりをすすめていきたいと考えます。

シンポジウムから

コーディネーターの佐々木光明さん(神戸学院大学法学部教授)からの

- ・子どもが元気が出る時ってどんな時
- ・支えるという言葉の中で大事なこと
- ・ネットワークすることで何が生まれるか

こんな投げかけに企業からは前田光久さん、行政から太田栄子さん、NPOからは田部真樹子さんがシンポジストとして話し合われました。

子ども自身が主体者になった時、信頼された時、自分が認められた時、子どもは本当の意味での自分の力を発揮する。大人が元気であることが子どもの元気につながり、そのためには雇用の安定が大切。点でしかない一つの団体や企業そして行政が「つながる」ことで面となり人が育ち、子どもたち一人ひとりへのとぎれない支援へとつながっていく。三重県中どこで生まれても同じ支援が受けられるような社会にということが話されました。

★子どもの権利が保障され、安心・安全に育つには、地域の様々な主体がネットワークを組む必要がある。私たちに来ることを模索することの大切さ、そして、大人も子どもも支えあうことや信頼を生み出す関係作りの大切さ

「ネットワークとは」「子ども支援者のあり方とは」「とぎれない支援とは」

⑥ゆらぎを語り聴きあうことの学び

支援する立場から、日々の自分の中の不安や葛藤の「ゆらぎ」を語り「ゆらぎ」を聴き、改めて自分を見つめなおすワークショップでした。じっくり聴いてもらえることで素直になれ、あたたかい気持ちになれたこと、その中から自分の「ゆらがない」大切にしたいものがはっきりしました。お互いに気持ちがつながり、安心の中、支援する大切さを感じました。

★「ゆらいでいいんだ」その中で人は、組織は成長する

⑩権利主体は子ども?!

～支援者としてここははずせない～

「権利主体は子どもである」という観点から、体験事業、養育支援訪問事業、ファミリーサポート事業、チャイルドラインなどそれぞれの現場からの事例発表があり、それをもとにして各自がしている支援に重ねてグループディスカッションをしました。

「主体は子ども」といいながら子どもに相談なしに大人が動くことや、支援する中でやってあげたい気持ちが膨らむことがあります。誰もが失敗する存在でその失敗に気づき成長の糧にできるかどうか、自分の気持ちに向きあいその自分を認めることが大切です。そのために支援者同士ふりかえることの大切さを再認識できた分科会でした。

★多様な価値観を認めることの大切さ、ありのままの自分を認めどう付き合っていくか

26日

- ① オープニング
- ② 基調報告
記念講演・村尾信尚さん
- ③ 「子どもたちのために私たちができること」
- ④ シンポジウム
「子ども支援のネットワークへの挑戦」
- ⑤ 交流会

27日

- ⑥ ゆらぎを語り・聴きあうことの学び
- ⑦ 「組織強化と運営」
もし、チャイルドライン組織の運営者がP・F・ドロッカーのマネージメントを頼んだら
- ⑧ とぎれない子ども支援とは?
～行政とNPOの連携による子ども支援
- ⑨ 子どもの権利条例を
全ての市町で制定していくために
- ⑩ 権利主体は子ども?!
～支援者としてここははずせない～
- ⑪ 子ども委員会
「ホントの自由を手に入れよう」
- ⑫ 子ども支援のネットワークづくりとは?
- ⑬ 子ども条例ワークショップ
- ⑭ 全体会

全国から子どもに関わる方々、二日間でのべ1025名の参加がありました